

2020年9月9日
ボルグワーナー

ボルグワーナーVTGターボチャージャー、 グローバルOEMから大口受注を獲得

- ガソリンエンジン車やガソリンエンジンベースのハイブリッド車への採用が有望な最適化されたVTGテクノロジー
- ターボチャージャーは高出力、高効率および低排出ガスを実現
- 大口ビジネスがグローバルOEMとの長期的な関係をより強化

ボルグワーナー(本社: アメリカ合衆国ミシガン州アーバンヒルズ、社長兼最高経営責任者: フレデリック・リサルド/ Frédéric B. Lissalde) は、最先端の可変タービンジオメトリー(VTG=Variable Turbine Geometry)ターボチャージャーを、グローバル OEM が生産する複数の車種向けに供給すると発表しました。これにより、ボルグワーナーはクリーンで高効率の動力を実現するためのソリューションを提供する世界的リーダーとしての地位を盤石なものとし、VTG ターボチャージャーは、出力向上、有害な排出ガスの低減や耐熱性強化といった最新のハイブリッドや内燃機関に最適の性能を有します。今回の供給契約により、ボルグワーナーは当該 OEM とのこれまでのビジネスをさらに拡大し、数多くの車種に対し、広範囲にわたるバリエーションのテクノロジーを提供することになります。

ボルグワーナーの新型 VTG ターボチャージャーは、供給先 OEM が生産する 1.0 リッターガソリンエンジンに採用されました。VTG ターボチャージャーは必要な過給圧を供給すると同時に有害な排出ガスを低減させます。また、摂氏 980 度にも達する耐熱性を有しており、高温の排気ガスにさらされるような過酷な条件下で高い信頼性を確保します。ボルグワーナーの最新テクノロジーはさらにエンジンの低回転時における高い応答性、滑らかな動力伝達能力や燃料向上も実現させました。

先進の VTG ターボチャージャーは、効率を高めることで有望視されるミラーサイクルなど、最新のエンジンと組み合わせることができます。VTG ターボチャージャーテクノロジーは、むしろこのように特殊なサイクルを採用するエンジンに適しており、内燃機関やハイブリッド車において非常に高い効果を発揮します。またこのテクノロジーは、ディーゼルエンジンからガソリンエンジンへの移行を促進するのに有効です。

世界中のほぼすべての OEM に部品やコンポーネンツなどを納入しているボルグワーナーは、実績のある高性能ターボチャージャーを活用した多様なソリューションおよび、シングルソースサプライヤーとしての高い効率を自動車メーカーに提供しています。

ボルグワーナーエミッション／サーマル／ターボシステムズの社長兼事業本部長のジョー・ファドゥール (Joe Fadool) は、「ボルグワーナーは、今後強化される排出ガス規制や自動車業界における様々な変化に積極的に対処できる先進的な製品を開発することにより、お客様をサポートし続けます」、「ガソリンエンジン用 VTG ターボチャージャーのような革新的技術は、将来強化されることが予想される排出ガス規制への対応に道を開きます」と述べています。



ボルグワーナーは、VTG ターボチャージャーをグローバル OEM が生産する複数の車種向けに供給すると発表しました

ボルグワーナーについて

ボルグワーナー (NYSE: BWA) は、内燃機関、ハイブリッド、電気自動車向けのクリーンで高効率な技術ソリューションを提供するグローバルなリーディングカンパニーです。世界 19 カ国 67 カ所に生産・開発拠点をもち、全世界でおよそ 29,000 人の従業員を擁しています。詳細については、borgwarner.com をご覧ください。

本プレスリリース(以下、本「リリース」)に記載された内容には、経営陣の現在の見通し、期待事項、試算、推定に基づく、1995 年米国私募証券訴訟改革法で想定された将来予測に関する記述が含まれている場合があります。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「影響」、「試算する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「目標」、「指針」、「取り組み」、「意図する」、「場合がある」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「予見する」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしょう」、「かもしれない」などの文言、その変化形および同様の表現は、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。さらに、歴史的事実に関する記述を除く、本リリースに含まれる、または言及する形で盛り込まれた当社の財務状況、事業戦略、当該戦略を実施するための手段などに関して、将来起きる、または起きる場合があると当社が期待する、または見込むあらゆる記述は、将来予測に関する記述です。その例として、業務の変更、競争上の強み、目標、当社事業および業務の拡大と成長、計画、将来の成功に関する言及などがあります。当社の直近の Form 10-K 年次報告書(以下、「Form 10-K」)の第 7 項「重要な会計方針 (Critical Accounting Policies)」で記述されたものをはじめとする会計上の試算は、本質的に将来予測です。すべての将来予測に関する記述は、歴史的な動向、現在の状況、期待される将来の進展、当社がそれらの状況下で適切と考えるその他の要因に関する当社の経験と知見を踏まえた当社による仮定および分析に基づいています。将来予測に関する記述は業績を保証するものではなく、当社の実際の業績は、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄と著しく異なる場合があります。

これらの将来予測に関する記述は、本リリースの発行日における事柄を述べたものであり、過度に依存すべきではありません。将来予測に関する記述にはリスクおよび不確実性が伴いますが、それらの多くは予見困難かつ一般的に不可抗力によるものであり、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄とは著しく異なる実際の結果をもたらす可能性があ

ります。そうしたリスクおよび不確実性の例として、自動車およびトラック製造(いずれも景気に大きく左右される)への当社の依存性、大手 OEM 顧客への当社の依存性、商品の入手可能性および価格、供給停止、金利の変動および外貨の為替レートの変動、与信枠、主要経営陣への当社の依存性、情報システムへの当社の依存性、世界経済環境の不確実性、さまざまな損害賠償に関する訴訟など既存または将来の法的手続きの結果、当社が事業を展開している国における関税など将来の法規制の変更、直近の Form 10-K の第 1A 項「リスク要因(Risk Factors)」など証券取引委員会に提出する報告書に記載したその他のリスクが挙げられます。当社は、期待事項の変更または記述の根拠となる出来事、条件、状況、仮定の変更を反映するために、本発表文に含まれる将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新もしくは改訂を公表する義務を負いません。

<報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 中井、佐藤

TEL:03-3571-5326 FAX:03-3574-0316

EMAIL : borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp